

浸水防止対策の事例と技術

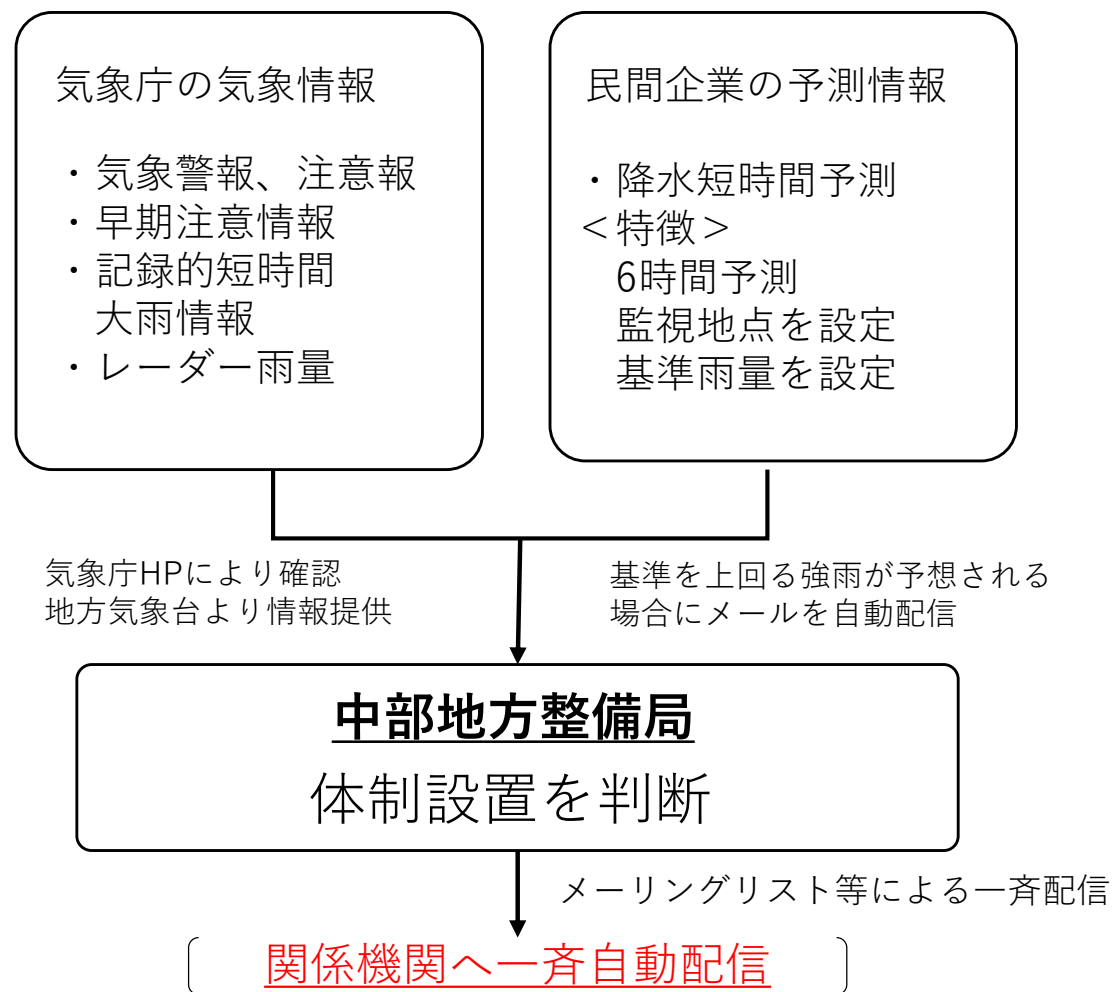
1. 情報収集や共有
2. 止水施設の例
3. 出入口のかさ上げの例
4. 気象状況を踏まえた閉鎖基準及び計画閉鎖
5. 関係機関によるプッシュ型支援
6. 関係機関と連携した実効性の高い訓練の実施

1.情報収集や共有

■気象予測情報の収集と共有

- 最新の気象情報・降雨予測を定期的を取得し、体制設置の判断に使用
- 気象予測情報を関係機関へメーリングリストで一斉自動配信

【道路管理者の気象予測情報の収集例】



■浸水センサの活用

- 浸水センサを用いてリアルタイムに浸水状況を把握し防災行動に繋げる仕組みを構築
- 一定の水深を感知した場合に、関係者へ自動通報

【ワンコイン浸水センサの取組】



2.止水施設の例

■車道部の浸水防止事例

- 止水板が床面に収納されており、浸水により止水板が自動的に起立



出典：東京都地下空間浸水対策ガイドライン 令和7年9月

■歩道部の浸水防止事例

- 止水板を壁面に収納することで、運搬が不要で設置時間の短縮が可能
- 軽量タイプにより、一人でも設置が可能



3.出入口のかさ上げの例

■出入口のかさ上げ（車道部）

○ 車両用出入口をかさ上げすることで、水の浸水を抑制



車両用出口のかさ上げ
※車道より約50cm
(四日市市役所南側スロープ)

■出入口のかさ上げ（歩道部）

○ 歩行者用出入口をかさ上げすることで、水の浸水を抑制



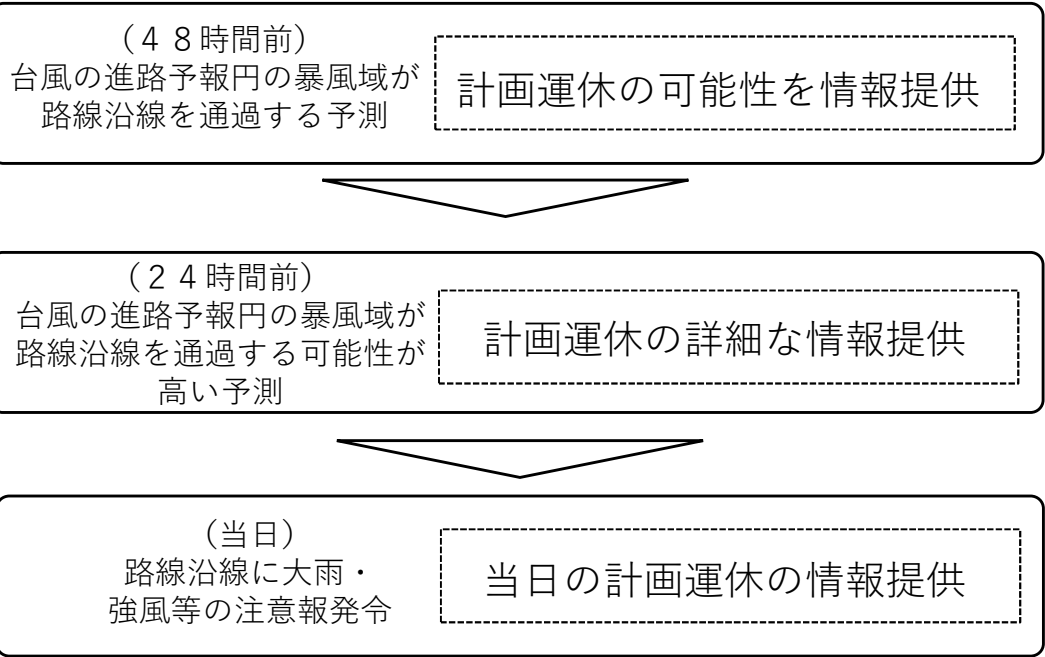
入口階段を2段かさ上げ
(名古屋市内地下街の取り組み)

4.気象状況を踏まえた閉鎖基準及び計画閉鎖

■鉄道における計画運休

- 鉄道事業者では水害に備え、計画運休タイムラインを策定
- 気象予測や気象状況に応じて、計画運休や利用者への情報提供を実施

モデルケース



■地下街の計画閉鎖

- 名古屋駅の地下街では水害に備え、地域と連携してタイムライン（案）を策定
- 気象予測や気象状況に応じて、翌日の営業中止を検討・判断したり、地下街の閉鎖を実施



出典:国土交通省ホームページ
計画運休・運転再開時における情報提供タイムラインのモデルケース
https://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo02_hh_000111.html

出典:平成29年度名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))抜粋

6.関係機関と連携した実効性の高い訓練の実施

■関係機関が連携した訓練

○ 過去の被災を踏まえ、複数事業者を集めて継続した止水板設置訓練を実施

博多駅周辺では、過去に2回の冠水被害を教訓に、駅周辺の商業施設の関係者など、約160人が参加する合同訓練を毎年実施

- 実施日: 令和7年5月15日(木)
- 場 所: 博多駅(博多口・筑紫口／全4会場)
- 参加者: 13事業者・約160名(駅・鉄道・商業施設・交通局等)



出典：福岡市地下鉄HP

- 関係機関が一堂に会する協議会等を設置し、事業者等との連携による合同水防訓練を実施
- 継続して避難誘導訓練や土のうづくり訓練を実施

大雨による地下街の水災害を想定し、区、警察、消防、地下街、地下鉄、接続ビルが連携した訓練を実施(ゼスト御池(京都市))

- 実施日: 平成28年3月5日(土)
- 場 所: ゼスト御池河原町広場 外
- 参加者: 中京区防災会議(区/関係機関)・自主防災会・地下鉄・近隣ホテル・交通局等



土のうづくり訓練：作成した土のうは地下街に保管

出典：地下街等における浸水防止用設備整備のガイドライン
(平成28年8月国土交通省 水管理・国土保全局河川環境課 水防企画室)